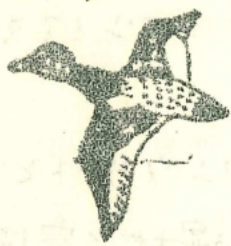
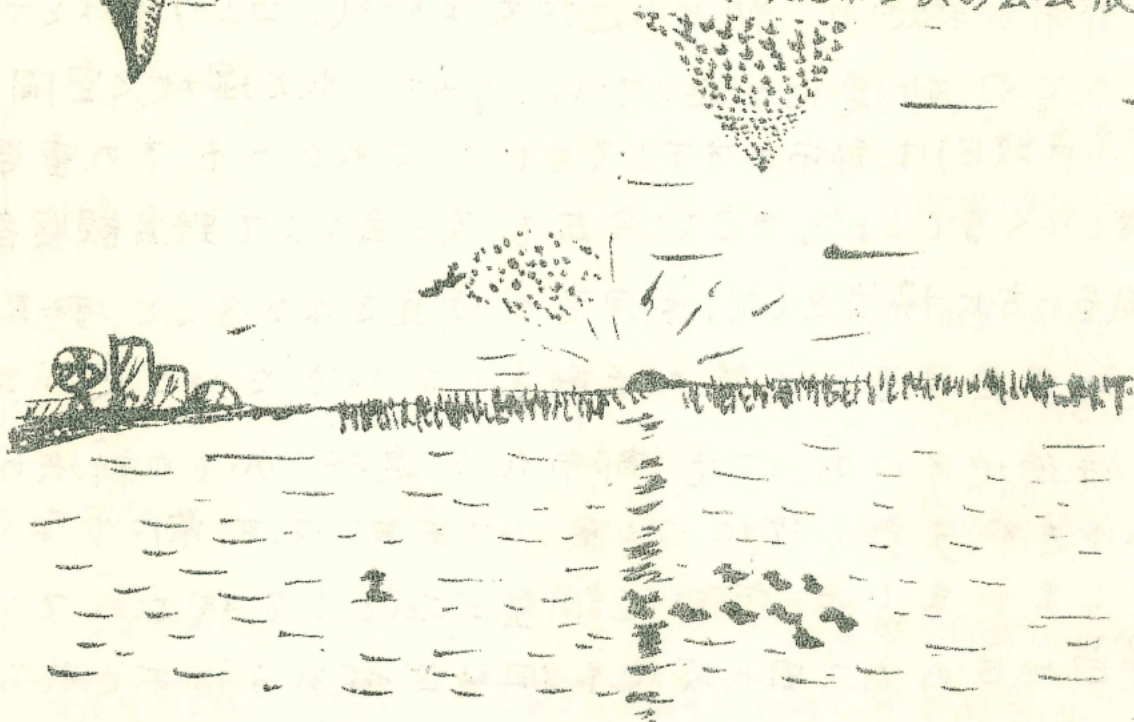


すずがも通信 No. 5

1981.2.1



振替 仙台-6129 行徳野鳥観察会友の会会報



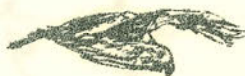
ガァ ガァ ……、グゥ グゥ ……

地平線が 暁に変わる頃
体を刺す寒気 の中を
沖のスズガモの群れが
黒いシルエットを描いて
思うままに大空を飛ぶ
あるがままに生きる鳥のように
また一年頑張ろうと
心に誓いつつ
自然に学ぶことを忘れかけていた
自分をそこに見つけました。



(1981.11 塩浜岸壁にて) 星 亮介

はじめに



行徳野鳥観察舎は、779.11に新観察舎がオープンしてから、すでに6000人もの利用者を迎えています。

都市が拡大され、緑や水辺が失われ、コンクリートとアスファルトとの砂漠化が進んでいくなかで、水と湿地と空間(行徳野鳥保護区)は、都市のオアシスとして、これからその重要度を増してくるでしょう。そこで今年も、友の会として野鳥観察舎の職員の方に協力をして、利用者の便宜をはかること、野鳥の生息地保全すること等の活動をしていきたいと思ひます。

行徳地区においても、都市化が進み、かつての新潟のおもかげを残す所(湿地、アシ原、ハス田等)は、非常に少なくなりました。市街化調整区域として残されている砂田地区のハス田や湿地も調整区域からはずされて、開発されようとしています。浦安沖に計画されている巨大ゴミ埋立地(マニックス計画)や塩浜地先の埋立てについても、皆さんとともに考え、発言していきたいと考えています。

以下に今年度の行事をのせますので、ぜひご参加下さい。

また野鳥の会と協力して、行徳地区の自然観察会(探鳥会)を年6回ほど行なう予定があります。(田久保)

行事案内(予定)

1月	・1日 スズガモの帰還と初日の出を見る会 06:00塩浜岸壁・*3日曜日 ・*3日曜日 スズガモの飛び立ちを見る会 定例園内観察会 13:30~
2月	・*3日曜日 スズガモの飛び立ちを見る会 *3日 定例園内観察会 13:30~
3月	・春の木植物観察会(園内) *1日 定例園内観察会 13:30~

2 (022)



4月	映画とスライドの会 *1 *3 日 定例園内観察会
5月	Bird week (愛鳥週間)関連行事 *1 *3 日 定例園内観察会
6月	御旗場見学会(可能な限り) *1 *3 日 定例園内観察会
7月	トビハゼを見る会 *1 *3 日 定例園内観察会
8月	浅・チドリを見る会 (五洲放水路又谷津干場) *1 *3 日 定例園内観察会
9月	秋の虫の声を聞く会 *1 *3 日 定例園内観察会
10月	秋の植物観察会(木の实・草の实) *1 *3 日 定例園内観察会
11月	スズガモの飛び立ちを見る会 *1 *3 日 定例園内観察会
12月	スズガモの飛び立ちを見る会 *1 *3 日 定例園内観察会

定例園内観察会は観察会が注月行事は定例観察会とかわることがあります。



朝露の畦道

変わりゆく行徳①

(田久保文子)



ハナヤフクロモの森。ランドセルをしょって、みち草をしいたころ、朝の畦道は、玉きのせてころかしている蓮の葉、稲の葉を住居としているフクロモ、足音を聞いて“ほちん”と身をかいくすカエル、クイのそばでそと外をうかがっているサリゲニ、そんな自然の音や香です。ほりとかくれています。だからいつも、ほろい畦道を何かを期待しながら歩いていました。

運動がつかも、むぎこどうも学校に着くころには、朝露でびしょりぬれていました。

こんな思い出のある人は、“いったいどこで育ったのかしら”と思われるかもしれません。これは昭和30年代の行徳のことです。

行事案内

スズガモの飛び立ちを見る会

2月15日(日) 5:00pm 観察舎前に集合。約2時間の予定です。

スズガモの群は夜中海でエサを採るため、日入後保護区から東京湾へ飛び立ちて行きます。月の光を写す水面をけて飛び立つスズガモの群は、壮観です。寒いので防寒具を充分にしてください。

春の植物観察会(園内)

3月29日(日) 1:30~4:00

陽だまりでは、セイヨウナシホボ、オオイヌノフグリ、ホトケノザなどの野草が花をさかせています。園内の木植物はどうでしょう?

集合 観察舎前 1時30分

事務局より

友の会・会費を同封の振替用紙でお使いの上おあせめ下さい。

(なお観察舎にても、会費を必ずお持ち下さるようになります)

年会費 普通 1000円 エキストラ 500円 賛助 2000円以上

編集後記

今年度から、大村英雄・真澄さんにかわり、すすかも通信の編集担当になりました。楽しい会報にしたいと思いますので、1年間よろしくお願いします。会報には限りがありますが、できるだけ会員の声をお聞かせしたいと思います。家族のこと、鳥のニエース、自然保護の意見等編集までお寄せ下さい。

発行は年6回(2、4、6、8、10、12月)を予定しています(いつ?)

なお会報とともに野鳥観察会だより等も随時お送りする予定です。

すすかも通信

No.5-1981.2.1-

発行人

亀谷 栄

事務局

鈴木 有

編集人

田久保晴孝・文子

行事報告

1月1日 スズガモの帰還と初日の出を見る会

参加者 約50名、当日はよく晴れて初日もよくみられた。4000羽のスズガモが頭上を飛び、とてもすばらしいものでした。

スズガモのほか、ウミアイサ、ホオジロガモ(400羽)セグロガモ、イソヒヨドリ等がみられました。

解散後、観察舎(蓮尾さん)の好意で、暖かとりながらの甘酒はとてもおいしかった。

1月18日 スズガモの飛び立ちを見る会

参加者 18名 5:30pm 日入後通後から飛びはじめたスズガモ 4000羽。全羽の羽音まで……6:00pm 保護区の水面は静かになった。

観察舎でみられる鳥

スズガモ 4000羽、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒトリ、トモエガモ、フイチビ、ミロドリ、セグロガモ、ホシビロ、

(友の会会員お支払手帳について) 仙台-6129